

森林レクリエーションに関する研究 (Ⅱ)

－鹿児島県栗野町住民アンケート調査－

馬場 裕典・吉良今朝芳・池田 美穂

(森林管理学講座)

平成9年8月10日 受理

A Research after the In-Forest Recreation (Ⅱ)

－ A Questionnaire executed on to the Dwellers of Kurino-Town in Kagoshima Prefecture －

Hironori BABA, Kesayoshi KIRA and Miho IKEDA

(Laboratory of Forest Ecology and Management)

はじめに

山村地域は地理的に不利な条件を抱えているため、産業の誘致や生活基盤の整備が困難であり、都市住民との生活様式の格差が広がった。そのため、若年層が就業機会や物質的に豊かな生活環境を求めて都市部へ流出し、山村地域では人口の減少、高齢化が進んでいる。そのため、1970年代末期から各地で新しい産物の開発や新しい産業を起こしたりする地域がでてきた。こうした動きを「むらおこし」と総称されている³⁾。近年では森林を活用したレクリエーションは山村地域のむらおこしに大きく期待されている。このむらおこし活動のひとつである山村住民と都市住民との交流の具体的な手法としては、①野外教育活動型交流、②イベント型交流、③産地直送型交流、④会員制度型交流、⑤オーナー制度型交流がある²⁾。森林レクリエーションは主に、野外教育活動型交流、イベント型交流に利用されている。

地域住民の視点から見た「むらおこし活動」における森林および森林レクリエーションの役割は、むらおこし活動の場所を提供し、特産物の販売促進に努めるだけでなく、森林レクリエーションを通して参加者を日常の生活から解放し、心身ともにリラックスさせ、今後の生活の活力を養うとともに、家族や地域住民、さらには都市住民との交流を図りやすくすることである。

今回取り上げた栗野町も人口の流出や高齢化が深

刻な問題となっており、他の山村地域と同様に生活基盤の整備や森林レクリエーションおよびその施設を活用したむらおこし活動が盛んに行われている。栗野町のむらおこし活動の特徴としては次の二つが上げられる。一つはむらおこし活動が地方自治体为主导して行っている地域が多数を占めているなか、栗野町では地域住民が発案し、栗野町役場が協力するという形で始まったということ。もう一つはむらおこし活動に地域外住民、特に都市部住民に参加してもらう形式の活動が中心であるなか、栗野町では地域住民を対象にした活動が積極的に行われているということである。

これまでの森林または森林レクリエーション施設に関する研究では利用者の動向や利用者がその施設に対しどのように考えているかについての調査が多く行われており、施設の整備方針の策定や観光旅行者数の推計に大きく貢献している。しかし、これらの調査の多くは地域外住民を調査対象としており、地域住民の視点からの調査は少ない。そこで今回は栗野町住民がどのように町内のレクリエーション施設を利用しているのか、また、どのように考えているのかを明らかにし、今後の栗野町におけるむらおこしや森林レクリエーション施設の方向性について考察した。

ところで、森林および森林レクリエーション施設の利用状況や課題を把握することは非常に困難である。数少ない方法として、登山の場合は登山届の集

計により推定できる。また施設の場合は利用料金の総額や施設の利用書の集計、さらには管理人が日々の利用状況を観察し推計する。しかし、一般に森林や施設では利用料金の徴収や常時管理人がいることは少ない。特に特定の地域の住民がどの程度利用しているか、どのように考えているかを把握するのは非常に困難である。そこで今回は住民に対するアンケート調査により、それらの把握をおこなった。また、栗野町住民と地域外住民の利用動向の違いを明らかにするため、栗野町で最も大きなむらおこし活動である「栗野岳高原祭」において来訪者へのアンケート調査をおこなった。

栗野町の概要

1. 地理的・社会的条件

栗野町は鹿児島県の北北東部に位置しており、総面積は8,985haである。総森林面積は6,130ha、森林率は68.2%であり、そのうち国有林が1,281ha(21%)、民有林が4,849ha(79%)である。栗野町の特徴としては民有林率が非常に高く、また人工林率も73.8%と高い。

栗野町の東部には栗野岳を有し、さらに町中央部には九州第二の河川である川内川が流れている。交通網はJ R肥薩線、国道268号線、県道55号栗野加治木線、県道栗野停車場えびの高原線、さらに九州自動車道(栗野I.C)が町域の中心部を通過している。

人口の推移については1950年の14,566人をピークに、減少傾向を示しており、1996年には8,717人となっている。1975年以降は人口の減少は鈍化している。人口が減少する一方、世帯数は増加傾向にあり、1世帯当たりの構成人数が1950年の5.1人に対し、1994年では2.6人となっていることから、高齢者のみの世帯が急激に増加していると考えられ、高齢化については現在も深刻な問題として残っている。

栗野町の就業者数は4,217人で、うち第一次産業従事者が1,130人(総就業者数に対する割合:26.8%)、第二次産業従事者が1,463人(同:34.7%)、第三次産業従事者が1,620人(同:38.5%)となっている。第一次産業従事者のほとんどが農業従事者である。産業構造の変遷についてみると、1955年には農業従事者は7割以上を占めていた。しかし、わが国の第二次産業を中心とした高度経済成長に伴い、第一次産業である農業従事者は急激に減少した。その傾向は現在でもつづいている。一方、第二次産業

は1975年以降の企業の進出などにより製造業を中心に急激に増加した。栗野町の人口の減少が鈍化したのはこのためであると考えられる。

林産業については、森林面積は鹿児島県の市町村で12番目に高く、さらに民有林率が79%と非常に高いものの、林業従事者は36人と非常に少ない。適切な森林の保育・間伐および伐期齢に達した際の木材生産労働力の確保が今後の課題としてあげられる。

栗野町の観光については、九州自動車道(栗野I.C)が町中央部を縦断しており、溝辺の鹿児島空港からも近いことなどから交通の便は非常に良く、また松尾城趾などの史跡や温泉もあり、さらに栗野岳が霧島屋久国立公園に含まれていることなどから、栗野町を訪れる観光客は多いと考えられる。しかし、町内には宿泊施設が温泉旅館などを含めて数カ所しかないため、栗野町の観光は通過型であると考えられる。今後の観光産業の健全な展開を考えるときの課題として、宿泊施設の整備があげられる。

2. 栗野町のレクリエーション施設

栗野町のレクリエーション施設の位置はFig. 1に示したとおりである。

栗野町ではこれまで生活基盤の整備や余暇施設の整備が国の補助事業などをとおして行われてきた。その中でも「美しい森林むらづくりモデル事業(林野庁所管)」の対象地区に栗野町が指定され、1992年から1993年にかけて栗野町住民に生活環境の向上や余暇生活の場、都市住民との交流の場、学習の場を提供するための景観形成および環境保全のための整備が行われた。この事業により栗野岳を含む周辺の施設、松尾城趾周辺、天然記念物であるノハナショウブの自生南限地である三日月池周辺およびJ R廃線跡地にサイクリングロードが整備された。

霧島屋久国立公園にふくまれている栗野岳は、他の栗野町の森林と同様にその多くが人工林化されているが、登山道付近は原生林に覆われており、植物資源に恵まれ、また頂上からの景観が優れている。さらに、この栗野岳登山口付近には栗野岳レクリエーション村と栗野岳ログ・キャンプ村が整備されている。この二つの施設が栗野町の中心的な森林レクリエーション施設である。栗野岳レクリエーション村は元は原野であったが、1987年以降整備が行われ、現在では栗野岳展望台、アスレチック施設、枕木階段、遊歩道、トイレ「岳の雪隠堂」などが整備されている。枕木階段(561段)は、J R廃線敷となっ

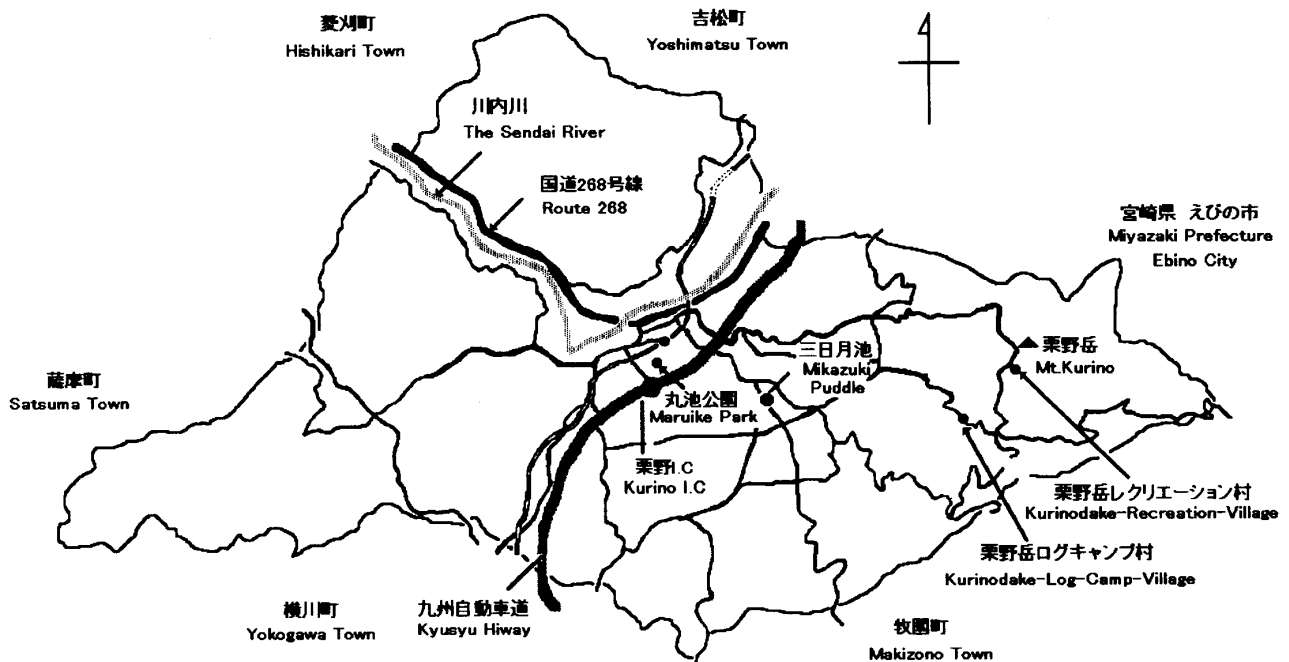


Fig. 1. The map relative to recreation for institution of recreation in Kurino.

た枕木を利用して作られたものであり、枕木階段の最上部に展望台が設置されている。栗野岳ログ・キャンプ村は栗野岳分校の跡地を利用して1989年に整備された。施設内容は20カ所のテントサイト、プール、炊事棟などが設けられている。

栗野町では多くのむらおこし活動をととして、交流活動が行われているが、その中でも、栗野岳レクリエーション村を利用して行われる「栗野岳高原祭」が最も規模が大きい。このイベント型交流は1994年から行われており、春の新緑祭、夏の夏休みイベント、秋の紅葉まつりの年3回行われている。特に秋の高原祭には霧島登山の閉山式も同時に行われている。この高原祭の来訪者数は年々増加しており、1996年は春が12,000人、夏が5,000人であった。この高原祭は1992年に地元の住民団体が物産展を自発的に行ったのが最初であり、以後栗野町役場の協力を得て規模が拡大していった。その内容は季節ごとに様々なイベントを行っているが、バーベキューなどの昼食セットが用意されており、食事を兼ねて来訪する人が多い。そのため、来訪者は午前11時頃から午後2時頃に集中している。

また、この他にも栗野岳ログ・キャンプ村ではミニコンサートや栗野町内の小学3・4年生を対象に5月と9月に1週間の自然学習を含めた研修キャンプなどが行われている。

この栗野岳周辺の利用者数は1992年が54,000人、1993年が56,000人、1994年57,500人となっており、増加傾向にある。また、最も利用が多いのが11月で、ついで8月、7月の順となっている。町内外の利用者数の違いは町内が若干上回っている¹⁾。

丸池はJR栗野駅の裏手に位置する湧き水がでる池であり、日本名水百選にも選ばれている。

松尾城趾とサイクリングロードについても、「美しい森林むらづくり事業」により整備された施設であるが、本論文では自然を活用したレクリエーション施設にのみ視点をおいているため、集計から削除した。

栗野町住民に対するアンケート調査

1. アンケートの概要

このアンケート調査は1995年秋に鹿児島県加治木農林事務所と栗野町役場の協力を得て行った。調査方法は1世帯当たりに対して各地域の公民館を中継し、配布し、回収した。回答数は385戸で栗野町在住の総世帯数3,369戸の11.4%に相当する。

回答者の性別・年齢別回答者数はTable 1の通りである。若年者が少なく、高齢者が多いのは今回のアンケートが世帯当たりに対して行ったものであるため、その世帯の代表者が回答したと考えられることと、また町民の高齢化が進んでいることが影響し

Table 1. The number of respondents

	Obscurity		Men		Women		Total	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Obscurity	2	50.0	1	0.4	0	0.0	3	0.8
-19	0	0.0	3	1.3	2	1.4	5	1.3
20-29	0	0.0	4	1.7	3	2.1	7	1.8
30-39	0	0.0	20	8.4	21	14.8	41	10.6
40-49	0	0.0	44	18.4	23	16.2	67	17.4
50-59	0	0.0	63	26.4	34	23.9	97	25.2
60-69	0	0.0	65	27.2	18	12.7	83	21.6
70-79	2	50.0	35	14.6	37	26.1	74	19.2
80-89	0	0.0	4	1.7	4	2.8	8	2.1
Total	4	100.0	239	100.0	142	100.0	385	100.0

ていると考えられる。

また居住年数については全体の9割以上が10年以上居住していることから本論文に取り上げたレクリエーション施設等の存在は周知していると考えられる。また30歳代、40歳代をみると30年以上居住している人が46.3%、52.2%であり、約半数が栗野町に移住してきた人か、Uターン者であると考えられる。

回答者の職業については「農林業従事者」が25.5%、農林業以外の就業者が37.9%、その他の非就業者が34.8%であった。また、就業者だけで見ると、「農林業従事者」が40.2%を占めており、栗野町の産業別就業人数と比較すると、農林業従事者に若干かたよりがある。

2. 道路交通の便利さ

生活基盤の整備の中で最も基本的なものが交通網の改善である。交通網には町外とのアクセスと町内

の生活網に大きく分けられる。栗野町は高速I.C.を有し、さらにJR肥薩線も通過しているため、町外とのアクセスは十分であると考えられるため、今回のアンケートでは日常の生活道路の便利さについてたずねた。その結果はTable 2のとおりである。

全体的にみると、「便利である」が53.1%、「どちらかと言えば便利である」が34.3%となっており、生活道路に対する大きな不満はないようである。しかし、年齢別にみると20歳未満と70歳以上で、また男女別にみると、女性の方で「不便である」と回答している比率が高い。また「不便である」という理由としては「公共交通機関が少ない」が最も多くあげられていた。

3. 栗野町内の自然およびレクリエーション施設について

自然およびレクリエーション施設については、町

Table 2. The degree of convenience of transportation in Kurino-Town

Classification Sex, age and job	Be convenient		Be slightly convenient		Be inconvenient		Total	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	133	56.1	82	34.6	22	9.3	237	100.0
Women	65	47.8	46	33.8	25	18.4	136	100.0
-29	6	50.0	3	25.0	3	25.0	12	100.0
30-39	15	36.6	22	53.7	4	9.8	41	100.0
40-49	30	44.8	29	43.3	8	11.9	67	100.0
50-59	57	60.0	28	29.5	10	10.5	95	100.0
60-69	47	57.3	27	32.9	8	9.8	82	100.0
70-	43	56.6	19	25.0	14	18.4	76	100.0
The primary industries	58	59.2	33	33.7	7	7.1	98	100.0
The other industries	68	46.6	57	39.0	21	14.4	146	100.0
The un-employed	72	55.8	38	29.5	19	14.7	129	100.0
Total	198	53.1	128	34.3	47	12.6	373	100.0

内の自然およびレクリエーション施設の利用度、満足度、今後の整備の必要性についてたずねた。以下、これらの結果について述べる。

1) 栗野町の自然やレクリエーション施設の利用度

栗野町内の自然やレクリエーション施設に行ったことがあるかどうかについては Table 3, Table 4 のとおりである。

すべての施設を全く利用していない人は16.2% (61人) で、すべての施設を全く利用していない人の91.8% (56人) が50歳以上である。さらに、栗野岳周辺の施設をすべて利用している人は全体の42.3%であった。逆に、全く利用したことがない人は全体の22.3%で、年齢別にみると、50歳代が22.1%、60歳代が32.9%、70歳以上が38.0%と全体の50歳以上で9割を超えている。

全体的にみると、「栗野岳」が65.2%と最も多く、ついで「栗野岳レクリエーション村」の64.1%、「丸池公園」の59.8%がつづいている。比較的町の中心部に近い、丸池公園や三日月池より、栗野岳や栗野岳レクリエーション村の方が利用率が高くなっている。

栗野岳ログ・キャンプ村については、他の施設より利用率が低くなっている。これは栗野岳周辺には栗野町のどの地域からも日帰り利用が可能であるため、宿泊の必要性はそれほど大きくないことを反映していると考えられる。しかし、このキャンプ村は1992年から利用が開始され、調査年まで5年しかたっており、48.1%であることを考慮しなければならない。さらに今回のアンケートでは20歳未満の回答者が極端に少なく、小学生向けの研修キャンプなどのイベントが行われていることを考慮すると、実

Table 3. The degree of use of the recreation institutions by townsmen in Kurino (1)

Classification Sex, age and job	Unuser of all recreation institutions		User of area of Mt. Kurinodake		Unuser of the area of Mt. Kurinodake		The number of answer	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	40	16.9	104	43.9	56	23.6	237	100.0
Women	21	15.1	55	39.6	28	20.1	139	100.0
-29	2	16.7	9	75.0	1	8.3	12	100.0
30-39	2	4.9	27	65.9	2	4.9	41	100.0
40-49	1	1.5	42	62.7	3	4.5	67	100.0
50-59	13	13.7	38	40.0	21	22.1	95	100.0
60-69	16	19.5	25	30.5	27	32.9	82	100.0
70-	27	34.2	18	22.8	30	38.0	76	100.0
Total	61	16.2	159	42.3	84	22.3	376	100.0

Table 4. The degree of use of the recreation facilities by townsmen in Kurino (2)

Classification Sex, age and job	Mt. Kurinodake		Kurinodake- Recreation-Village		Kurinodake- Log-Camp-Village		The Mikazuki lake		The park of Maruike		The number of answer	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	151	63.7	157	66.2	114	48.1	135	57.0	140	59.1	237	100.0
Women	95	68.3	85	61.2	67	48.2	86	61.9	85	61.2	139	100.0
-29	11	91.7	9	75.0	9	75.0	7	58.3	9	75.0	12	100.0
30-39	33	80.5	38	92.7	31	75.6	33	80.5	34	82.9	41	100.0
40-49	55	82.1	58	86.6	49	73.1	51	76.1	49	73.1	67	100.0
50-59	66	69.5	57	60.0	40	42.1	63	66.3	59	62.1	95	100.0
60-69	43	52.4	46	56.1	27	32.9	35	42.7	40	48.8	82	100.0
70-	38	48.1	34	43.0	25	31.6	32	40.5	34	43.0	79	100.0
The primary industries	60	61.2	64	65.3	45	45.9	53	54.1	51	52.0	98	100.0
The other industries	106	75.2	100	70.9	78	55.3	96	68.1	99	70.2	141	100.0
The un-employed	80	58.4	78	56.9	58	42.3	72	52.6	75	54.7	137	100.0
Total	246	65.4	242	64.4	181	48.1	221	58.8	225	59.8	376	100.0

Table 5. The facilities in Kurinodake-Recreation-Village that gave lasting impressions on to townsmen

Classification Sex and age	Steps by tie		Observatory		Athletic		The promenade in old growth		Lavatory		Other		Total	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	74	51.4	33	22.9	8	5.6	9	6.3	19	13.2	1	0.7	144	100.0
Women	55	67.1	5	6.1	9	11.0	5	6.1	8	9.8		0.0	82	100.0
-29	1	11.1	4	44.4	3	33.3	0	0.0	1	11.1	0	0.0	9	100.0
30-39	19	54.3	4	11.4	10	28.6	1	2.9	1	2.9		0.0	35	100.0
40-49	33	61.1	7	13.0	3	5.6	7	13.0	4	7.4		0.0	54	100.0
50-59	35	63.6	6	10.9		0.0	4	7.3	9	16.4	1	1.8	55	100.0
60-69	25	58.1	9	20.9	1	2.3	1	2.3	7	16.3		0.0	43	100.0
70-	16	53.3	8	26.7	0	0.0	1	3.3	5	16.7	0	0.0	30	100.0
Total	129	57.1	38	16.8	17	7.5	14	6.2	27	11.9	1	0.4	226	100.0

Table 6. The degree of satisfaction for facilities of forest recreation in Kurino-Town

Classification Sex, age and job	Be satisfied		Be slightly satisfied		Can't select		Be slightly dissatisfied		Be dissatisfied		Total	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	55	25.7	57	26.6	33	15.4	17	7.9	52	24.3	214	100.0
Women	38	31.7	20	16.7	21	17.5	6	5.0	35	29.2	120	100.0
-29	4	33.3	4	33.3	1	8.3	1	8.3	2	16.7	12	100.0
30-39	8	20.0	10	25.0	13	32.5	4	10.0	5	12.5	40	100.0
40-49	14	21.5	16	24.6	14	21.5	6	9.2	15	23.1	65	100.0
50-59	26	29.5	13	14.8	13	14.8	4	4.5	32	36.4	88	100.0
60-69	21	29.6	20	28.2	11	15.5	5	7.0	14	19.7	71	100.0
70-	20	34.5	14	24.1	2	3.4	3	5.2	19	32.8	58	100.0
The primary industries	25	28.7	19	21.8	13	14.9	6	6.9	24	27.6	87	100.0
The other industries	34	25.8	24	18.2	29	22.0	12	9.1	33	25.0	132	100.0
The un-employed	34	29.6	34	29.6	12	10.4	5	4.3	30	26.1	115	100.0
Total	93	27.8	77	23.1	54	16.2	23	6.9	87	26.0	334	100.0

質的にはこの数値よりは高くなると考えられる。

また、男女別では大きな変化がないのに対して、年齢別では全ての施設において、年齢が高くなるにしたがって利用度が低くなっている。

栗野岳レクリエーション村は複合施設であるが、利用者にとって最も印象に残った施設についてはTable 5のとおりである。

全体的にみると、「枕木階段」の57.1%が最も多く、「展望台」の16.8%、「トイレ岳の雪隠堂」の11.9%とつづいている。森林レクリエーションの代表的な活動である原生林遊歩道を利用した森林浴は6.2%と最も低かった。

男女別でみると大きく異なっており、「枕木階段」と「アスレチック」で女性が大きく上回っており、逆に展望台とトイレ「岳の雪隠堂」で男性が上回っている。

また年齢別にみると、枕木階段は30歳未満では11.1%と低く、他の年代は過半数を越えている。展望台では30歳未満は44.4%と高い比率を示している。これは若年層は展望台まで行き着く過程である枕木階段より展望台からの眺めを重視しており、30歳代～50歳代では過程である枕木階段重視していると考えられる。また、60歳代以降はその両方を重視していることがわかる。

2) 栗野町のレクリエーション施設の満足度

栗野町のレクリエーション施設の満足度についてはTable 6のとおりである。

全体的にみると、「満足」の27.8%が多く、「不満」の26.0%、「やや満足」の23.1%がつづいており、意見にバラツキがある。男女別にみると大きな違いはみられないが、年齢階層で全く異なっている。「満足」に関してみると年齢が高くなるにしたがっ

て、満足という傾向が強くなっているものの、不満に関しても50歳代と70歳以上で高くなっており、高齢層においては意見がはっきりと分かれている。

栗野町の自然やレクリエーション施設の利用についての回答とあわせてみると、栗野岳周辺の施設をすべて利用している人のなかでは、「不満」と回答した人は14.9%と非常に低くなっている。

また、栗野町のレクリエーション施設に不満を抱いた理由としては、「施設が不十分である」の36人（満足度の間で不満、やや不満と回答し、さらに不満を抱いた理由に回答した74人に対する比率：48.6%）が最も多く、「交通の便が悪い」の35人（同：47.3%）、「管理不足」の14人（同：18.9%）と回答されている。これを年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって、「施設が不十分である」と考えている人が多くなっており、一方、年齢が高くなるにしたがって「交通の便が悪い」と考えている人が多くなっている。

栗野町の自然やレクリエーション施設の利用についての回答とあわせてみると、栗野岳周辺の施設をすべて利用している人、全く利用していない人にかかわらず、「交通の便が悪い」の比率は高く、特に利用していない人のほとんどが「交通の便が悪い」と考えている。

3) 今後の森林レクリエーション施設の充実について

今後、森林レクリエーション施設を充実するべきかどうかについてはTable 7のとおりである。今後施設の「整備が必要である」と考えている人が「不必要」であると考えている人より多い。年齢別にみ

ると年齢が低くなるにしたがって施設整備が必要であると考えている。これは栗野町の森林レクリエーション施設への満足度についての回答と一致する。

また、その具体的な整備内容について、年齢別にみると、40歳代、50歳代で「子供から老人まで広い年齢層で遊べるような施設（14.1%）」が多く、また30歳未満で「スポーツ施設（9.9%）」が多い。一方、「自然林を増やす（8.5%）」は年齢構成に大きな偏りはなかった。

4. 栗野岳高山祭におけるアンケート調査

1996年11月（紅葉祭）と1997年春（新緑祭）の栗野岳高山祭において来訪者に対し、どのような人が来訪しているかを把握するためのアンケート調査を行った。調査方法はイベント会場の出入り口付近で、1グループにつき1人にアンケートを呼びかけて行った。回収数は713部で、うち町内が184部（全体の25.8%）、県内が421部（同59.0%）、県外が71部（同10.0%）、不明が37部（同5.2%）であった。今回は来訪者の住所、年齢構成、グループの構成および栗野岳レクリエーション村への来訪回数について、栗野町住民に視点を置き集計した。以下その結果について述べる。

来訪者の年齢構成はFig. 2のとおりである。全体では「20歳未満」が27.9%、「20～39歳」が29.3%、「40～59歳」が32.7%、「60歳以上」が10.2%と、高齢者の利用が低くなっている。しかし、栗野町住民についてみると男女別に関係なく、20歳未満が31.6%、60歳以上が16.2%となっており、栗野町以外の来訪者と比較すると高いことがわかる。

また、グループの構成についてはFig. 3のとお

Table 7. Acknowledged necessity of the maintenance of facilities in the future

Classification Sex, age and job	Need		No need		Can't select		Total	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	72	35.1	41	20.0	92	44.9	205	100.0
Women	35	30.2	13	11.2	68	58.6	116	100.0
-29	5	41.7	1	8.3	6	50.0	12	100.0
30-39	20	51.3	5	12.8	14	35.9	39	100.0
40-49	21	34.4	12	19.7	28	45.9	61	100.0
50-59	25	31.6	20	25.3	34	43.0	79	100.0
60-69	25	35.7	9	12.9	36	51.4	70	100.0
70-	11	18.3	7	11.7	42	70.0	60	100.0
The primary industries	28	32.9	13	15.3	44	51.8	85	100.0
The other industries	45	37.8	25	21.0	49	41.2	119	100.0
The un-employed	34	29.1	16	13.7	67	57.3	117	100.0
Total	107	33.3	54	16.8	160	49.8	321	100.0

りである。

全体的にみると、「家族」の71.1%が最も多く、友人の16.7%がつづいており、「家族」が中心となって来訪している。前述したように高山祭は昼食が用意されているため、家族での来訪者が多いと考えられる。しかし、栗野町住民についてみると、「個人」および「友人同士」による来訪が他の地域と比べ高

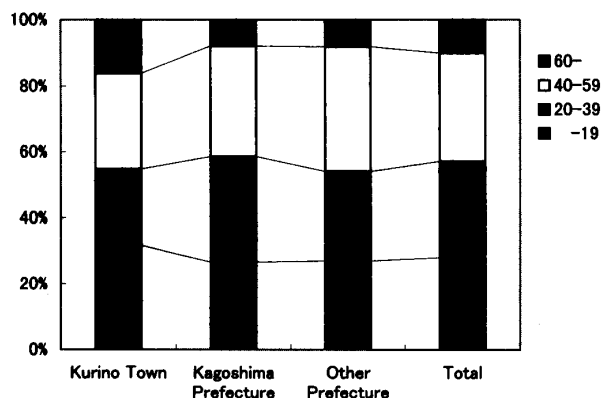


Fig. 2. Age group of visitors to the Plateau Festival.

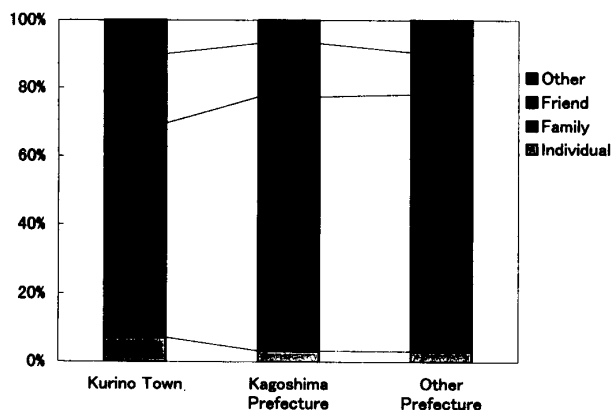


Fig. 3. Relation group of visitors to the Plateau Festival.

い。これは距離的に近いため、個人や友人でも気軽に利用できるからであると考えられる。

さらに、栗野町住民の栗野岳レクリエーション村への来訪回数については Table 8のとおりである。「4回目以上」の61.3%が最も多く、ついで「1回目」の26.6%、「2回目」の7.3%がつづいている。男女別では大きな違いはみられなかったが、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって、「1回目」の比率が高くなっており、「4回目」では低くなっている。

ま と め

これらのアンケート調査結果をまとめると以下のとおりである。

栗野町住民は栗野岳およびその周辺の森林レクリエーション施設の利用率が比較的栗野町の中心部に近い丸池や三日月池より高く、栗野町においては森林の持つレクリエーション的な役割を大きく果たしていると考えられる。しかし、そのなかで高齢者層においては利用率が低くなっている。それは、レクリエーション施設の満足度の間でもわかるように、自家用車などの自己の交通手段をもたない人々にとっては交通の便が悪いからである。栗野岳周辺の施設をすべて利用している人のなかでは、これらの施設に対する不満は、それ以外の人と比べ大幅に減少してはいるが、やはりレクリエーション施設までのアクセスは問題としている。50歳以上の高齢者における日帰り観光レクリエーションの目的地での行動で最も多いのは「自然、風景鑑賞」である⁴⁾。しかし、一般に森林レクリエーション施設は人里離れたところにあるため、自家用車などをもたない人々にとっては利用しにくい状況にある。

今後、地域の高齢化がすすむなかで、高齢者層の利用を促すためには、公共交通機関の改善があげら

Table 8. The number of occasions in which the Kurinodake-Recreation-Village was availed

	Once		Twice		3 times		4 times and over		Total	
	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio	Persons	Ratio
Men	14	29.2	3	6.3	2	4.2	29	60.4	48	100.0
Women	19	25.0	6	7.9	4	5.3	47	61.8	76	100.0
-19	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0	4	100.0
20-39	9	17.3	4	7.7	2	3.8	37	71.2	52	100.0
40-59	15	32.6	4	8.7	3	6.5	24	52.2	46	100.0
60-	9	40.9	1	4.5	1	4.5	11	50.0	22	100.0
Total	33	26.6	9	7.3	6	4.8	76	61.3	124	100.0

れるが、日常的に利用の少ない路線の開設は非常に困難である。

印象に残った施設については、他の森林レクリエーション施設にあるような遊歩道や展望台、アスレチックなどの施設をおさえ、枕木階段が半数以上を占めている。これは「美しい森林・むらづくり事業」による整備で栗野岳レクリエーション村に特徴付けがなされた結果であると考えられる。

今後の施設整備の必要性については、まだ必要であると考え人が多い。その内容には遊具施設の整備やスポーツ施設の充実など生活環境の向上がみられたが、一方では、自然保護に対する意見もあった。これは、国立公園に含まれる栗野岳周辺も人工林率が高く、地域住民としては自然林に返してあげたいと考えた結果であろうと思われる。

一方、栗野岳高原祭についてみると、まず訪れた人々のグループ構成については、町民においても「家族」で訪れた人が6割を超えており、町民に対しても家族団らんの場となっている。また、町内来訪者のうち高齢者の比率が町外の来訪者より高くなっている。さらに、町民来訪者のなかで初めて栗野岳レクリエーション村に来た人が26.6%と高く、高齢者のうち4割以上が初めての来訪である。これらのことから、栗野岳高原祭は町民の来訪に大きく寄与していることがわかる。特に、日常的に利用が困難である高齢者に対し、むらおこし活動は森林レクリエーションに参加するよい機会となっており、地域住民の利用向上に役立っている。

今回は、地域住民からみた森林レクリエーションおよびむらおこしの役割についてみたが、栗野岳高原祭に訪れる人が年々増加していることから、地域外住民に対しても大きく役立っていることは明らかである。

あらゆる地域において地域振興策の一環として、森林レクリエーション施設が設置され、その数は急激に増加しているため、各施設における利用者数の伸びが思うようにいかない地域が多い。そのなか、栗野町の場合は森林レクリエーション施設を設置しただけでなく、それらの施設を有効的に活用しているため、地域住民の利用は広がっている。

その要因は第一に栗野町にはリーダーシップをとれる人物または組織があり、むらおこし活動を地域住民が自発的に行えたこと、第二に栗野町がその活動を援助する形が出来たからであると考えられる。

要 約

1995年秋に栗野町住民の森林および森林レクリエーションの利用現状やそれに対する考えを明らかにするため、栗野町住民に対しアンケート調査を実施した。その結果、以下のことを明らかにした。

1. 栗野町住民の栗野岳周辺の施設の利用は非常に高く、森林のレクリエーション的な役割を大きく果たしていると考えられる。しかし、自己の交通手段をもたない高齢者については利用が低くなっている。
2. 栗野岳高原祭などのむらおこし活動は栗野町住民に対してもレクリエーション的な役割を含んでおり、栗野岳周辺の森林へのよい来訪機会となっている。特に高齢者においてその傾向が強くみられた。そのため栗野岳高原祭のように、地域外住民だけでなく、地域住民にもレクリエーション的な役割を含むようなむらおこし活動を継続的に行うことで、高齢者の利用率は高まるものと思われる。

謝辞：本論文の作成にあたり、鹿児島県加治木農林事務所、栗野町役場から資料の提供を得、また栗野町住民への調査では多大にご協力いただいた。さらに、栗野岳高山祭でのアンケート調査には鹿児島大学農学部森林資源学講座の1997年在学中の大学院生、4年生の協力を得て実施した。これらの方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 栗野町：美しい森林むらづくりモデル事業年度別事業実施計画書。p. 6, (1992)
- 2) 宮林茂幸：森林レクリエーションとむらおこし・やまづくり。p. 40-42, 社団法人全国林業改良普及協会、東京 (1993)
- 3) 沢畑 亨：八十年代後半の村おこし運動。林業経済, 477, 25-32 (1988)
- 4) 総理府：平成5年版観光白書, p. 39, (1993)

Summary

In the autumn of 1995, a questionnaire was executed on to the dwellers of Kurino-town in Kagoshima Prefecture in order to ascertain how 'forest' and 'in-forest recreation' have been made use of by them and what have been their estimations about those.

The results obtained are as follows.

1. The recreation facilities in the neighbourhood of the mount Kurinodake have been made use of with higher availability, which allows the forest to play the part of recreation facility well enough.

However, the aged persons are apt to be prevented from enjoying the facilities due to the poor accessibility of the region.

2. Various kinds of village-actualization events, such as Highland Festival of Mount Kurinodake have been giving the occasion of recreation to the dwellers Kurino-town as well as supplying the outsiders with the opportunity to visit the forest lying near the mountain. The successive keeping of such activities seems to enhance the availability of the facilities even to the comparatively aged persons.